

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（重点・新規項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「京都府教育振興プラン」の推進及び「府立高校の在り方ビジョン」に沿った学校経営 2 新学習指導要領の円滑な実施 3 生徒1人1台学習用端末の円滑な実施 4 学校運営協議会の取組も踏まえ、地域創生に資する人材育成 5 スクール・ミッションに基づくスクール・ポリシーの策定 6 オリエンテーション合宿の適正な実施及び研修旅行の成功 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭との連携及び教育相談会議やケース会議等の実施による個に応じた支援で、黒潮寮生を含めた生徒の生活を安定させている。 2 進路について、地元の水産・海洋関連産業に7名が就いた他、ほとんどが学習内容を深化・発展させる分野に進んだ。また、国公立大学30年連続合格や公務員4名を始めとする幅広い分野の、質の高い進路実現を果たしている。 3 実践的な教育活動により、本校の持ち味を生かした研究活動に取り組むとともに、教育長表彰に73%該当、マリンマイスター顕彰対象生徒も62名と多く（うち特別表彰6名）、レベルの高い資格を取得する生徒数が持続し、大会やコンテスト等への出場・入賞でも実績を積んでいる。 4 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に努めるとともに、高校新記録樹立を始め、国際大会や全国大会出場等の実績を重ねている。 5 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅を広げている。 6 宮津商工会議所との連携協定によるキャリア教育の充実や学校運営協議会による地域の魅力を感じさせる教育活動ができた。 7 キャリアプランニング・サポート（小中学校への学習・体験等提供）並びにコラボ推進プログラムに京都府北部の多くの児童・生徒が参加し、本校並びに水産・海洋関連産業等への理解を深めてもらうことができた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒、保護者等と教職員との信頼関係構築の一層の推進及び中学生、地域の方等から信頼され、懐れの対象となる魅力ある教員像の確立 2 新学習指導要領の円滑な実施、評価の充実 3 中学生及びその保護者等から求められる学校像の構築と、目的意識の高い志願者数確保に繋がる迅速かつ効果的な教育活動の発信及び広報活動の実施 4 生徒1人1台学習用端末活用の充実 5 コロナを契機とする工夫・改善事項を踏まえた諸取組の適切な実施及び働き方改革の推進 6 ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の適切な実施 7 個に応じた指導・進路保障の推進及び指導状況の共有 8 下宿・家庭・黒潮寮における好ましい生活の支援 9 教育課程への反映による中期経営目標の具現化 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒1人1台学習用端末の活用を基にした、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 (2) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (3) 地域人材を活用したキャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させることで、府北部活性化のために何ができるようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内外の連携や課題の共有に努めながら、探究活動の質をより向上させる。 (5) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的な生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導提要の改訂を踏まえ、「生徒心得」等生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切にし、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 (3) 成年年齢引き下げを踏まえ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動を促す。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育む。また、主体的な行動を促し公共心を育成する。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習（実習船含む）に常に緊張感を持って臨むとともに、点検・確認や円滑な情報伝達及び共有を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 新型コロナ対応で得られた対策や対応の手法等を継続する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする迅速かつ積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが職務にやり甲斐を感じ、Well-beingの実現が図れるよう職場環境の改善を図る。 (2) DXの推進等を通じた働き方改革により、生徒と向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上に努める。 (3) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> は関係する学年・クラス、分掌、学科・コースで連携し、事象の未然防止に向けた取組に努めることができた。今後も早期の対応に努めていく。 1、2年生が全員使用しているタブレットの利用により、個に応じた指導をさらに充実させることができた。
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動を推進し、専門教育の内容をさらに充実させるとともに、志願者数を増加させ、定員を充足させる。また、教育内容についての広報をさらに充実させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 各学科・コースや分掌において特色ある教育活動を展開している。ホームページ掲載については、学科・コースや分掌により更新回数に差があった。 新聞掲載回数は73回であった。より積極的な広報活動を行う。 ホームページについて、閲覧者にとってより魅力的なものになるように発信内容、発信方法をリニューアルした(3月13日)。 前期選抜における志願者倍率は1.0倍を上回ったものの、昨年度を下回った。志願者増に向け、広報を改善するなど充実を図る必要があった。
	職場環境の改善を図るため、働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> Teams等の活用によるICT化を推進することで、各分掌からの配布文書のペーパーレス化を図るとともに情報伝達の即時性・効率化及び業務縮減に努める。 行事及び業務の焦点化や精選、分掌業務の平準化や協働等により、時間外勤務時間の短縮を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> TeamsやCラーニングの利用など、積極的に利用できている教員が多いが、ペーパーレス化には担当者による温度差がある。Cラーニングについては、授業等の指導とともに、保護者等への教育活動の発信に活用できている教員もいるが、保護者等から一部発信不足の指摘も受けるなど、教員間に使用状況の差がある。 分掌業務については、各分掌にネットワーク担当を置くことで、ICTに関する業務の平準化を図った。 今年度4月から12月まで、教員全体における平日時間外労働時間の100時間超の回数は1回であった(昨年度2回)。60時間超の延べ回数は、昨年度58回(1.32回/人)から今年度44回(0.98回/人)へ減少した。また、その割合は0.11%であった(昨年度0.14%)。業務の精選や協業、効率化等により、19時以降の退行が、ひと月当たり半分以上の回数にならないことを目指し、思いやり週間やノー残業デーの実効性を高め、さらなる時間外労働時間の縮減を目指す。
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。	<ul style="list-style-type: none"> 「ホームページ・広報資料・学校説明会」を軸に、受け手(保護者、中学生等)を意識した内容の精選や質の向上等を図り、本校の魅力を効果的に発信する。(ICT化の推進) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> 第1回「よい」95.8%、「ほぼよい」4.2% 第2回「よい」93.8%、「ほぼよい」6.3% 第3回「よい」95.5%、「ほぼよい」4.5%
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 系統的な人権教育を推進するために、次の4項目を掲げる。 <ol style="list-style-type: none"> ①計画的な人権学習・人権講演会の実施 ②人権だよりの発行 ③文化委員会の人権啓発の取組 ④道徳教育取組まとめ 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 年度末評価 <ul style="list-style-type: none"> ①人権学習 5回 人権講演会 4回 ②人権だより発行 7回 ③人権啓発の取組内容に関するアンケートの実施ができなかった。 ④道徳教育の取組まとめの作成ができた。 今後も人権啓発に向けての学習活動を推進する。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進により教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る。	・新学習指導要領に基づき、より適切な学習評価に留意した年間学習指導計画や指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。	B	・カリキュラム・マネジメントの一環として、教科担当を対象に「教科指導に関するアンケート」を9月と1月に実施、92%の教科担当が年間指導計画どおりに授業が進行した。
	新学習指導要領に基づき、より適切な観点別評価の実施と教科指導力の向上を図る。	・公開、研究授業への参加や、観点別評価等の新学習指導要領への円滑な移行を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。 ①公開授業への参加1人当たり3回以上 ②観点別評価に関する会議や研修会の実施4回以上 ③年次進行を踏まえた新3観点別評価の実施率85%以上	A	・1、2年生の学習評価に関わり、教科主任を中心に会議と研修を4回実施した。来年度は新学習指導要領完成年度でもあり、より適切な3観点評価を目指したい。 ・3年生の学習評価では、新3観点での学習評価を専門学科の全ての科目で実施するなど、新学習指導要領を踏まえた評価が定着しつつある。今後さらに試行実施を重ね、令和6年度の学習評価に繋げたい。
	端末機器等のICT活用を推進し、社会のデジタル化への対応力を高める。	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、生徒の学力向上に繋げる。 ①ICT機器活用に関わる参集型研修やメンション7回以上 ②教科毎のデジタルコンテンツ整備(製作等)数2個以上 ③学習時間伸長に向けた学習時間調査を学年部や学科・コース、部活動等で推進し、入力率向上を図る。	A A A	・教職員を対象にiPadの基本操作や学習アプリの利用方法等についてのメンションを13回、デジタルコンテンツ関連研修を2回実施、さらに、デジタル採点ソフトも導入した。今後はより効率的な学習指導を目標に活用を推進したい。 ・「教科指導に関するアンケート」の結果、約60%の教科担当が新たに制作もしくは既存のデジタル教材を活用している。今後は本校のデジタルコンテンツとして整備を進め、教材の共有と利活用を推進したい。
	読書活動を通してことばの力を高め、豊かな思考力を醸成する。	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。 ①50%以上の授業科目で図書室活用による探究活動を推進する。 ②図書委員会による読書推進に関わる教職員アンケートを実施し、その有効性について高い評価を得る。 ③図書室で1冊以上本を借りた生徒の割合85%以上	A	・アンケート回答者全員から、図書委員会の活動が読書の推進につながっているとの回答を得た。今後も図書委員会の活動が主体的なものとなるよう指導したい。 ・図書館で1冊以上本を借りた生徒は91%であった。今後は図書委員会等の活動をより活性化して貸し出し数を伸ばしたい。
生徒指導部	生徒が主体的・自発的に成長や発達する過程を支える活動を推進する。	・生徒会や委員会が中心となり、生徒が自主的・自発的に校則を守る活動を推進する。	A	・中央委員は定期考査ごとに点検を行った。(取組回数9回) 生徒会で来年度の生徒心得について、協議した。
		・交通安全や交通ルールについて、生徒が主体的に規範意識やモラルを高める取組を推進し、交通事故防止に努める。	A A B	・4/26自転車安全運転講習会、5/17自転車安全利用推進員啓発活動、7/12自転車安全利用推進員講習会、1/23自転車安全利用推進員啓発活動を実施した。 ・自転車安全利用推進員の活動について、今後活動の幅を広げていけるよう考えていく。
進路指導部	学年部及び関係分掌・コースと連携を図り、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	・進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路の実現に向け生徒が主体的に取り組む意欲と態度を育成し、実現させる。	B B B	・学年及び個別指導担当による時間をかけた手厚い指導と分掌間の情報を共有できた。 ・就職希望者は前年度比150%。第1志望への内定率は84%。就職希望生徒の指導においては、学年及び学科・コースとの連携した指導を実施した。(最終就職内定率は100%)
保健部	「学校の新しい生活様式」に基づき、学校生活を安心・安全に送ることができるよう、継続的な感染予防対策を定着させる。	・各分掌と協力し、「新しい生活様式」に基づいた校内的な対策の見直しを図りながら継続的な感染症予防対策の定着を目指す。 ・「新しい生活様式」の生徒・保護者への周知、検温等の生徒の健康状態の把握、出欠席の状況把握を的確に行い、継続的な予防対策の定着を目指す。	B	・2学期以降もインフルエンザや新型コロナウイルス感染症に関連した感染拡大防止や予防に努めた。季節的に今後も流行が懸念されるため、継続的に感染予防の周知を促していく。
	施設点検及び清掃時の点検を定期的に行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、生徒の学習環境や学校の衛生環境の充実を図る。	・各クラスの環境美化委員や保健委員と連携し、校内の学習環境の定期的な点検を行う。また、事務部や衛生委員会と連携しながら校内の衛生環境の充実を図る。(月1回の学習環境チェック、学期に1回の衛生環境の把握を目標とする。)	B B B	・2学期より学習環境や施設設備の定期点検、衛生環境の充実に努め、関係分掌と連携しながらチェックを行ってきた。今後も必要に応じて事務部と連携しながら改善に努めていく。
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い、各分掌と連携したきめ細かい組織的な支援に努める。	・日頃より学年部を中心にSCと連携しながら生徒の状況把握に努め、状況に応じて迅速なケース会議、教育相談会議等を開催し、生徒の個別支援内容の共有化を図るとともに、健やかな学校生活を送るための支援を充実させる。	A	・多くの生徒の学校生活に心配が感じられたが、学校生活に前向きに取り組む、改善の兆候が見られる生徒も散見された。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
事務部	円滑な教育活動が展開できるように効果的で適切な業務執行に努める。	・事務室業務において、錯誤、失念などにより業務遅延を招かないために、事務室全体の業務進行を規定による月点検の他、業務ミーティングなどで全事務職員で把握する。	B	・昨年度より更に丁寧な点検項目を入れ、月1回ペースで自己点検を実施し、不適切な事務処理防止に務めることができた。 ・感染症対策等で失われつつある業務進行の工夫などのノウハウの復活を意識することが、次年度から必要である。
	安心・安全な教育環境の維持と改善を図る。	・京都府における施設設備の長寿命化政策を踏まえ、本校においても現在の機能を維持できるよう安全点検を行い、適切な環境維持に努める。	C D	・上半期においては、会計検査並びに監査が執行されたことで、昨年度の業務精査に追われ、教育環境の点検が十分にできなかった。 ・自己完結するのではなく、他の分掌とも力をあわせて教育環境の適切な維持に努めることが必要である。
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安心を徹底する。	・乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。	B	・救急コール携帯の徹底をしている。 年間を通じ、集合操練を10回実施した。
	組織・運営と連携し、小・中学校の体験航海の増大を図るとともに一般団体の体験航海も受け入れる。	・組織・運営と打合せをし、年間の体験航海を増大させる。	C	・新型コロナウイルス移行後、小学生の体験乗船が増加となっている。 年間を通じ、船内見学・体験乗船を24回した。
	航海船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究を深める。底曳網漁業実習については、実施目的が不明であるが、再開準備をして待つ。	・実習担当教員と連携を深め、知識や技術の向上に努める。	C C	・水産事務所職員を講師とする実技研修の他、安全確保のためのマニュアルを更新した。 ・令和5年10月に底曳網漁業実習を再開し、水産事務所に調査結果を報告した。
	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を継続させる。	・5月から緩和されるが、引き続き船内消毒を行う。	C	・体験乗船前後の消毒。実習前後の消毒。 当直中、数回の消毒をしている。 当直中消毒3回行った。
寮・下宿運営部	定員増加に対応するための寮運営の確立	・今後、寮の定員増加が見込まれる中、大規模寮を見据えた寮運営の改善及び確立を目指す。	B	成果 ・食品製造実習棟3階の運用及び工事準備を行った。 ・定員増に伴う寮運営についてルール改定をした。 課題 ・定員増に関わり、寮生活ルールの不徹底が見受けられる。
	寮運営のマニュアル化	・新規の寮・下宿部員または外部舎監が円滑に寮運営を行えるよう、寮運営に関わり明文化されていないものをマニュアル化する。	B B	成果 ・食数管理マニュアルを定着させた。 ・感染症対策を行い、感染者を最小限に抑えられた。
	寮生の自発的な行動を促す取組の展開	・生徒自身が日課や規則に対する意味を認識しながら生活できるような前向きな取組を展開し、生徒が寮生としての自覚と誇りを持つようにする。	A	成果 ・毎週火曜日の反省会を定着させた。 ・寮生活のルールを定着させた。 課題 ・朝の奉仕活動に、出席可能生徒全員を出席させることができなかった。
第1学年部	教科・分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	・学力向上の取り組みを行い、成績上位者数の増加を目指す。	A	・1学期当初に比べ、学年末には成績上位者数が減少。原因としては、家庭学習が定着していないことが考えられる。
	希望進路の実現を目指す上で、学力向上とキャリアアップを図る。	・進路実現に向けてのキャリアアップとして、資格取得を促進させる。	D C	・資格取得に対する意識に個人差がある。2年次以降は各学科・コースと連携し、積極的に資格取得に挑戦する指導を行いたい。
	日々の学校生活を大切に過ごし、基本的な生活習慣の確立を目指し、適切に行動できる生徒を育てる。	・教科、学科、コースと連携を図り、日常的な点検や声掛けを行う。	D	・生徒指導部や学科・コースとも連携し継続的に指導を行いたい。
第2学年部	希望進路の実現に向け、個々の実績づくりをサポートする。	・自己理解、職種や進路についての理解を深め、進路希望を具体化する。	C	・さらに進路に対する意識を高めていきたい。
	規範意識を持たせ、社会性を向上させる。	・教科担当者と担任の連絡を密にし、提出物の未提出者数を減らす。	C D	・未提出者については、最後まで指導を継続した。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第3学年部	希望進路実現及び高校生活を全うさせること	・進路指導部と協働して、面接指導や補講等を行い、第一希望の合格率を上げる。	A	・就職・・・49名内定/49名 進学・・・39名/39名
		・卒業まで気を抜かぬよう、個に応じたきめ細かな指導を徹底する。 <数値目標> ①学習成績優秀者数24名 ②欠点総数ゼロ ③欠課時数超過ゼロ、 ④教育長表彰7割以上 ⑤令和5年度皆勤者12名以上	B C	
BYOD運営部	1 一人一台端末導入に係るハード面、ソフト面の環境整備を行い、ICTを円滑に利用できる学校づくりに取り組む。 2 ICTの利点と危険性を理解し、教職員が教育の質の向上に活用できる知識と技能の向上に取り組む。	・端末活用ガイドブックの改善等、生徒が端末を安心・安全に活用できる環境整備に取り組む。	A	・ガイドブックに生成AI活用に関する留意事項を入れるなど、適時状況に応じて使用基準を改訂した。次年度からMDMの廃止や緩和が行われるため、より一層端末を適切に活用できる仕組みづくりに取り組んでいく。 ・共用iPadやモバイルルーターを学校図書館に設置するとともに、Teamsのタブに学校図書館やiPad等の管理簿を整備して利活用しやすい環境を整備した。 アプリの活用方法などのオンライン講義等の情報を校内で共有し、教職員個々の働き方やニーズに応じた知識と技能の向上に取り組んだ。 ・研修実績：成績処理に関する研修会(1回)、ICT活用に関するオンライン研修会資料の配布(1回)、オンライン講義の情報共有(4回)本校に適したICT活用を研究し、普及できるように引き続き取り組んでいく。
		・ICTを活用した教育活動を推進するために、学校図書館を利用した教育実践等、本校に適した具体的な指導方法を創出する。	A A A	
		・BYOD運営部の定期会議で、教育の質の向上や働き方改革に役立つ研修を行い、教職員のICT活用に関する資質と能力を計画的に向上させる。	B	
海洋科学科	「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、進路選択・決定における自己実現を支援する。	・第3学年において、希望進路を実現させる。	A	・3年生による進路講話等で実施することで、現2年生の進路意識を向上させる取組を継続中である。 ・学会等における研究発表を全員の目標として設定し、参加しない生徒も研究活動に導入できるような仕組みを作ることができた。課題研究2年目につなげていきたい。
	「課題研究」分割履修(今年度開始)の運用を方法を検討し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	・課題研究の成果について、発表する機会を設ける。	A B	
航海船舶コース	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	・ICT活用や補習等を推進し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 (資格毎数値目標) 海技士(三級2名、四級6名)、第二級海上特殊無線技士10名 小型船舶操縦士(一級8名、二級12名)、漁業技術検定12名	D D D	・全体的に資格取得状況が低迷傾向にある。次年度、補習等を充実させ、目標達成に向けて努力が必要。
海洋技術コース	・生徒の専門性の向上 ・関連進路先への就職、進学	・海洋技術コースに関連する資格取得・検定合格を通じて、生徒の専門的な知識や技術の習得を図る。また、企業見学や業務体験を通じて進路意識の向上を図り、コースに関わる進路指導へと繋げる。 ・企業見学や業務体験等を新規に実施する。	B	・全員受験の4つの資格において、合格率89%となった。次年度以降、90%以上の合格率を目指したい。 ・企業見学や業務体験を年間で2回実施。離岸堤の設置や河川工事など、潜水に関する業務見学を新規で実施した。 ・今後も、引き続き2年生の進路選択の指標となるよう、土木や潜水に関して継続して実施していきたい。
	・外部との連携強化 ・研究内容の検討と深化	・丹後半島沿岸海域の環境保全及び地域振興を目標とした活動を展開する。また、各種堆肥の製造及び栽培実験等の研究を外部と連携し、里海エコサイクルの更なる深化を図る。	B A	・環境保全及び地域振興に関わる実習等は年間で11回実施。取組の優先順位を明確にし、計画的に実施する必要がある。 ・堆肥製造や活用等の連携は年間で7回実施。堆肥製造の拡大により、土木実習へ影響がないように配慮する必要がある。
	・教員自身の専門性の向上 ・教員間での知識・技術の伝承	・校外研修や資格・講習等の積極的な受講・取得をめざす。また、校内研修を充実させる。	A	・校外研修や資格・講習等の受講・取得回数は年間で5回であった。。資格取得と並行して、技能の向上が求められる。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
栽培環境コース	学習した専門的な知識と技術を定着させ、社会で活躍できる資質と能力を育成する。	・増養殖に関する資格取得を推進し、知識・技術の習得に繋げる。 (小型船舶1級・2級、栽培検定1級・2級、漁業技術検定、潜水士等)	B	・多くの生徒が資格や検定の取得に精力的に取り組んだ。また、Cラーニングの活用により、生徒が主体的に学習する機会を増やすことができた。しかし、生徒が資格や検定取得に取り組むにあたり、個々の得手、不得手の内容や程度の差が大きく、限りのある教職員数で個別最適な学習支援を行う体制づくりについて更に研究を深める必要がある。
	個に応じた指導を行い、希望進路を実現させる。	・コース面談を行い、希望進路や生徒個々の状況を把握し、進路実現や課題解決に必要な指導や助言を実施する。	B B B	・進路選択や学習面等について面談を行い、3年生については希望進路に応じて1学期から計画的に進路指導を実施した。今後、関連企業との連携を広げ、関連進路の魅力を生徒が感じる機会を増やし、さらに多くの水産・海洋分野で活躍する人材の育成に取り組む。
	先進的な増養殖技術や、ICTを活用したスマート水産業について学習し、次世代を担うために必要な知識と技術を習得する。	・外部講師を招いた学習や、プログラミングやICT機器を用いた増養殖技術について学習する。	A	・新魚種開発では、連携協定を結んでいる企業の支援を受け、ティラピア、ムラサキウニ、ニジマスの養殖・蓄養を実現することができた。 ・プログラミングを活用して水質監視やタイムラプス動画撮影を行い、増養殖に関わる学習を深めることができた。また、人工知能を活用した飼育管理の分析も実現することができた。
食品経済コース	高校生レストランの活性化を目指し、生徒の自己有用感を育む。	・自分の学校に誇りを持つ生徒を育成する。	B	
	関係機関との連携を推進するとともに、地域活性化につなげる。	・地元の低利用資源を活用した高校生レストランやこども食堂を実施する。	C B B	・レストランの実施回数：11回 (宮津レストランの会場が9月末より改修工事に入り実施できず、当初の計画から実施回数が減った。)
	コース内での研修を十分にを行い、生徒の希望進路実現を目指す。	・定期的に研修会を実施し、知識・技能の伝承を行う。 ・京都府内関連企業への就職を推進する。	A A	・5回実施 ・学校紹介希望生徒11名中、9名が京都府内の関連企業に内定
国語科	基礎学力の定着と、国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	・生徒のことばの力を高めるため、文章検定及び漢字検定の受検を勧める。	D	・近年受検人数が減少傾向にあるため、多くの生徒に漢字検定の受検を促し、基礎的な語彙力向上に役立てたい。
		・読書活動の充実を図るため、下記の取り組みを行う。 ①長期休業中における、読書活動推進のための課題の設定 ②読書アンケートの実施 ③図書館オリエンテーションの実施 ④探究活動につながる図書館やウェブ上の情報活用の指導 ⑤図書館資料を利用した探究活動	B B B	・夏季休暇中に読書レポートを実施。課題図書をきっかけに読書に興味を持つ生徒もいた。また図書館オリエンテーションを実施し、図書館利用の方法について1・2年生で学習した。さらに、読書アンケート・図書館を利用した探究活動につながる活動も行うことができた。3学期以降、探究活動につながる読書課題を課した。
		・授業時間の3分の1について、ICTを活用する。その際、教員と生徒のやりとりのみならず、生徒同士の「協動的な学び」を意識した授業実践を月に1度以上行う。	A	・2学期後半以降、2年生では「地域の魅力発見」をテーマに、各生徒が自ら選んだ地域の魅力を発表した。また、1年生ではグループを編成し、Google Formsを介してクラスメイトに向けたアンケート作成や、PowerPointで同一のスライドを編集させた。また、1・2年生ともに、Cラーニングで相互評価をさせた。
地歴・公民科	地歴・公民科に対する関心・意欲・態度を醸成することで、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養し、確かな学力を身に付けさせる。そのために、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的な学びにつながる授業改善を行う。	・ニュース時事能力検定準2級における合格率を向上させる。	D	・すべての学年において、授業の際に、より受検を促していく。
		・定期的に小テストを実施するなどし、学力定着に取り組む。	B	・補習や提出物の指導をより強化し、来年度は0を目指したい。
		・問いを考察し、表現する学習の実践により、授業満足度を高める工夫に努める。	D	・授業アンケートの結果を受けて、自らの授業を振り返り、授業改善に努める。
		・実践的な発表授業を実践し、生徒自身の自発性を高める。	B	・今後、タブレット活用の改善を図り、より内容を充実させていく。

令和5年度 京都府立海洋高等学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) 実施段階

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
数学科	基礎学力の定着と生徒一人ひとりに合わせた指導を確立することで、思考力・表現力を伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。	以下の4項目の達成を目指す。 ①成績不認定生徒0名 ②家庭学習を習慣化させるための指導法の確立 ③観点別評価の年次進行に備えて、教科内での情報の共有 ④数学検定の合格率の向上	C C C	・生徒の様子、課題や教材を共有することで評価の整合性を保った。 ・教材研究を重視し、日々の課題を充実させることで、家庭学習の習慣化を目指した。
理科	理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力・表現力の醸成に努める。そのために、BYODに対応したICT教材の推進や観点別評価に対応した授業づくりを推進する。	・1年生の「化学基礎」、2年生の「化学と人間生活」、「生物基礎」にて、個人端末のiPadを活用した以下の取組を行う。 ①iPadを活用したグループワークの取組 ②プリントなどの教材をiPad上で取り組ませ提出させること。 ③Formsを活用したリアルタイムでの送受信の取組。 ④実験や観察を通して、なぜそうなるのかを考えたり、意見交換したりする場面を設定し、コミュニケーション能力や論理的思考力を育てる取組。 ⑤教科書の二次元コードから見ることが出来る実験動画等を活用し、学習内容の理解の深化につなげる取組。	D C	・1年生は、二次元コードを利用した動画視聴を各自で行う機会を設けた。音が重なり合ったので、音声が無い動画で取り組むようにしたい。2年生は、主にプリントでの学習を行っている。自分で調べさせる時間に、ネットで調べることも可とし、調べたことをプリントに記録させ、発表もさせて、黒板に書き、共有することに取り組んだ。プリント提出によって評価した。また、動画を検索させ、各自で見ることを実施した。実験では、考察に対して答えさせる場面で、グループで意見交換させることができ、④と⑤はある程度実施できた。
		・観点別評価に向けて定期考査以外の単元ごとの評価材料を増やし、評価方法を確立する。	A C	・1年生の化学基礎と2年生の生物基礎の授業では、1単元が終わると振り返りプリントに取り組ませて提出させている。5月の連休中の課題、夏休みの課題、冬休みの課題を課し、提出させる取組を3回、問題集の練習ノートの提出を5回実施した。2年生の科学と人間生活では、授業プリントを毎回集めてその都度確認し、取組の状況を毎回記録した。5月の連休課題、夏休みの課題、冬休みの課題を課し、提出させる取組を3回。問題集の提出は学年末も合わせて5回実施した。
保健体育科	安全に授業を進めるとともに、学力向上と希望進路を実現し得るたくましい生徒を育成するため、体力向上を目指す。	・体育の授業中における通院を要する事故・ケガを減少させる。(昨年度5)	C C	・通院を要するケガ4件発生。 各種目担当が種目特性に応じた準備運動や授業内容を工夫して、大きなケガの発生件数は昨年度より減少したが、0件が基本なので今後は更に緊張感を持った授業を実践し、ケガをする生徒を無くしたい。
	保健体育科の取組をHPに掲載し、本校の教育活動の発信に努める。	・ホームページ掲載回数を増加させる。(昨年度2回)	B	・掲載回数11回。 昨年度より増加。今後は、内容を工夫し掲載回数増加を目指したい。
芸術科(美術)	生徒1人1人が作品と向き合う中で、高い意識をもって制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に務める。	・計画的に制作活動に取り組ませ、作品を期限内に完成させ、提出させる。	A A A	・計画どおり順調に進めることができています。今後も生徒が期限内に作品を完成できるように、生徒の進捗状況を把握し、指導していく。
家庭科	生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と、他者と共存できる力を育成する。	・家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。	B B B	・プリント学習の内容のチェック等を励行し、学習内容の定着に向け、取り組めた。 ・自立に向けて体験的に学ばせる研修については、食生活の分野と衣生活の分野で実習ができた。
英語科	生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、4技能5領域を意識した学習指導を行う。	・プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を課すことにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。	A B B	・【成果】1年生では、パフォーマンステストを5回実施した。(テーマは自己紹介と興味のある職業、店舗、テクノロジー、偉人) AETが積極的に関わることで、生徒のモチベーションを高めることができた。2年生については、1組で5回、2・3組で4回実施し発信力の向上に努めた。 ・【課題】発信力の向上のために、学期に2回の発表だけでなく、日頃から取り組ませる課題を工夫していきたい。
		・4技能5領域の英語力をバランス良く高めるため、実用英語技能検定の受検を促し、合格者数の増加を図る。	D	・今後も受検を奨励していきたい。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、中学生の数が減少していく中で、学校規模を維持していくためには一定の志願者数を確保する必要がある。そのためには選ばれる学校づくりへの努力が必要である。 ・教育活動が充実しているにもかかわらず、評価が厳しいところがある。分掌、学科・コース、科目間のバランスをとり、評価の在り方についても考えるとよい。また、数値に挙げられている項目以外についても、努力が見えるような評価方法を今後確立するべきである。 ・卒業生の体験談や意見を視聴するような取組を増やすことなどを通じて、地元で活躍する生徒を育成してほしい。
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数を増加させられるよう、より一層、魅力ある学校づくりを推進するとともに、広報活動の充実により、教育活動のさらなる発信に努める。 ・教職員の共通理解に基づいた、人権に配慮した指導を推進する。 ・令和4年度から年次進行の新学習指導要領の完成年度を迎え、校内での観点別評価についての共通理解を深め、生徒の学習活動を的確に評価し、指導と評価の一体化を推進するとともに、生徒の学習及び教師による指導内容を充実させる。 ・探究活動について、産学官連携をさらに推進し、専門性を向上させるとともに、本校の大きな特徴として発展させる。 ・地域と連携した取組を推進することにより、地元で活躍する生徒を増加させる等、地域の活性化に貢献する教育活動を展開する。 ・業務の整理・スリム化による働き方改革をさらに推進する。